Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュース

2026年10月
vol.12

Q. 今回のクイズ

＼考えてみよう！ ヒントはこの新聞の中にあるよ！／

セーブ・ザ・チルドレンは、日本で○○年をむかえました



～地域とともに、日常をとりもどすために～

セーブ・ザ・チルドレンは、2026年7月28日に発生した熊本地震を受け、熊本県でひ災した子どもたちやその家族に、緊急支援を行っています。ひ災地では、最大震度7を観測し、水道・電気・ガス・道路などが破かいされました。



これまでの主な活動

7月28日 地震発生


出動準備～現地へ


初動調査（支援ニーズ聞き取り）


「こどもひろば」実施（八代市・氷川町）


子ども関連施設に昼食を配布


「こどもの居場所」実施支援（八代市）

…セーブ・ザ・チルドレンは10月以降も支援活動を続けます

くわしくはこちら

子どものためのPFA（こころのケア）の情報発信



子どものためのPFAとは、誰もができる災害時の子どものこころのケアの方法のことです。地震発生後すぐにSNSなどで発信しました。

「緊急子ども用キット」の配布



屋内で遊べる遊び道具やドライシャンプーなどが入っています。もう暑で断水がつづく中、えい生用品が役立つとの声がありました。

「こどもひろば」の実施・「こどもの居場所」実施サポート



子どもたちが安心・安全に遊び、自分の時間を過ごすことで、日常に近い生活を取り戻すための手助けになります。また、八代市の要請により、「こどもの居場所」づくりをサポートしました。

物品・衣類などの配布



ひ難所や学童保育施設などで、ニーズに応じた子ども用衣類、飲料水、えい生用品や冷却ジェルパック、昼食などを配りました。

世界の子どもたちの1日 ～ウガンダ～



ウガンダ・アルア県／アルア市の子どもグループでは、子どもたちが地域の課題を話し合い、自分たちの声を行政や地域社会に届けています。

AM 9:00 会場に到着



異なる村や学校から集まった子どもたちが、セーブ・ザ・チルドレンの車で会場に到着しました。

AM 9:30 午前プログラムスタート



子どもたちはグループで集まり、教育や環境など身近な課題について話し合いました。

PM 1:00 ランチタイム



やわらかい肉のスープと芋やバナナを使った、子どもたちに人気のウガンダ料理です。

PM 2:00 午後プログラムスタート



子どもたちは議長を囲み、市の予算について伝えたいことを話し合っています。

PM 4:00 プログラム終了

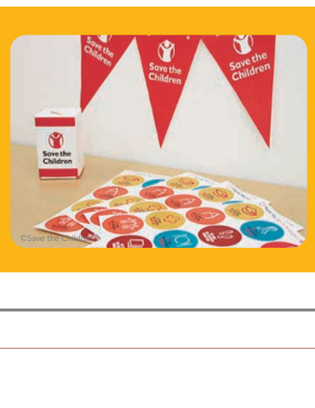


教員不足や子どもへの暴力などの課題について、市の職員に発表しました。

子どもグループ議長のジュリアンさん（17歳）

ソーシャルワーカーの母が地域の子どもたちを支える姿を見て、私も子どもの権利を伝えたいと思うようになりました。これからも、子どもたちの意見を発信していきたいです。





みんながができることってなんだろう？

学校の募金活動や文化祭のチャリティイベントなど、さまざまな方法があります。

くわしくは「あすのコンパス」のサイトから ▶▶▶

あすのコンパス

40th
Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 40年

生きる、育つ、守られる、参加する。
世界中すべての子どもの権利が実現された世界を目指して。

セーブ・ザ・チルドレンは、世界で100年以上、日本では2026年に40年を迎えました。

www.savechildren.or.jp/

セーブザチルドレン 検索

発行元：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F